

(対象事業：1 地域の中核館として他館や他機関等と連携して行う事業)

事業名：日本から未来へ－ Museums by Japanese Architects

事業者名：日本から未来へ－Museums by Japanese Architects 実行委員会

連携事業館名：兵庫県立美術館、いわき市立美術館、岩手県立美術館

住所：神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1

神奈川県立近代美術館

TEL：046-875-2800

FAX：046-875-2968

HPアドレス：<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/>

①実行委員会組織

実行委員長 山梨俊夫 (神奈川県立近代美術館 館長)

実行委員 木村重信 (兵庫県立美術館 館長) 田口安男 (いわき市立美術館 館長)

佐々木英也 (岩手県立美術館 館長) 太田泰人 (神奈川県立近代美術館 普及課長)

李美那 (神奈川県立近代美術館主任学芸員)

②事業の意図目的

本展は、世界で活躍する日本人建築家による現在進行中の美術館建築を取り上げ、近年の日本人建築家による成果を広く紹介するものである。本展を広域の複数の美術館による共同企画で開催することにより、建築の現場である狭い意味での地域にとどまらず、建築という『土地』に密着した要素を、個々の場合の細部にとらわれずに見通し、地域と美術館の関係を考える大きな視点を、地域を跨いで共有する。

③事業概要

本事業は、地域の中核間である複数の公立美術館が地域を跨いで共同企画を行い、巡回展を開催するものである。わが国の建築家の活躍は近年世界的に大きな注目を集め、特に美術館建築の分野でその優秀さが世界から認められているにもかかわらず、日本国内で広く一般に紹介される機会に乏しいのが実情である。2003年12月にフランスのポンピドゥーセンターがメスに分館を作るための国際コンペに勝利した坂茂、青森県の三内丸山遺跡隣接地に建設中の青森県立美術館建築設計コンペに勝利した青木淳、新富弘美術館の設計を行ったヨコミゾマコト、2004年に開館した金沢21世紀美術館の設計を行った妹島和世＋西沢立衛／SANAAの4組を取り上げ、安藤忠雄や磯崎新といった大御所的建築家に続く世代による、世界的に活躍する建築家の仕事を紹介することで、広く一般に日本の建築家の活躍と成果を発表するものである。展示は、模型・図面・手稿・実物サンプル・映像など幅広いマテリアルを用意し、建築分野の展示に触れる機会の少ない鑑賞者に対してもなじみやすい展示を心がけた。

④事業の製作物及び報告書等

「日本から未来へ－Museums by Japanese Architects」展図録

A4変形、フルカラー36ページ

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 35,352人

内 訳 兵庫県立美術館 14,034人、いわき市立美術館 3,293人

神奈川県立近代美術館 12,142人、岩手県立美術館 5,873人

(1) 事業の実施状況について

各会場の会期：	兵庫県立美術館	2004年6月11日－7月11日
	いわき市立美術館	2004年9月11日－10月17日
	神奈川県立近代美術館 葉山	2004年10月30日－12月19日
	岩手県立美術館	2005年1月4日－2月27日

優れた建築プロジェクトを数多く輩出している現在の日本において、建築現場という狭い意味での「地域」において美術館の必要性の是非が話題になることが増えている。しかし、美術館建築そのものが地域にとって及ぼす影響や、建築があることによって醸成されてゆく人々の関係、それに伴う「地域」と「美術館」についてのディスカッションが巻き起こるような契機とはなり得ていないのが現状といわねばならない。

そこで、建築という「土地」に密着した要素を、個々の場合の細部にとらわれずに見通し、地域と美術館の関係を考える大きな視点を、地域を跨いで共有する好機とするため、以下の項目に重点を置いて本展覧会を実施した。

- ① 日本の現代文化としての建築・デザインを、地域の生活の眼から見直す。
- ② 具体的な建物を理解し考える文化が育つことにより、地域における美術館のあり方と、建築と都市とのつながりを考えることに資する。
- ③ 国際巡回展によって世界の美術館建築を日本に紹介するだけでなく、日本にとっての建築文化の意義をより高いものとし、人々の鑑賞体験をより充実したものとする。
- ④ 複数の地域にまたがる公立美術館が共同で企画し開催することにより、美術館と地域との関係について、狭い意味での「地域」にとらわれない、大きな視点を獲得する。
- ⑤ 建築家坂倉準三の代表的建築である神奈川県立近代美術館の鎌倉館に端を発した公立近代美術館建築について、その葉山館が開館1周年を迎える好機をとらえて、美術・建築文化の歴史を積極的に未来へとつなぐ努力を行う。

これらの重点項目に従って、開催各館での展示を、各地方における建築に対する理解の実情に基づいた各館独自のプランとする方法を採用した。

また、開催各館において、それぞれギャラリートークや講演会を実施することで、地域の人々に「美術館」というものの存在を、展覧会というソフトのみならず、建築というハードの面からも改めて認識してもらえる機会を持った。

特に、神奈川県立近代美術館では、新たに開館した葉山館の開館1周年でもあり、近代建築としての価値が広く認識されつつある坂倉準三設計の鎌倉館に端を発した「美術館建築」というものを再考する好機と捉えた講演会やツアーを組むなど、多面的な努力を行った。

(2) 地域との連携について

- ・連携各館の状況：

兵庫県立美術館	2004年6月11日－7月11日
いわき市立美術館	2004年9月11日－10月17日
神奈川県立近代美術館 葉山	2004年10月30日－12月19日
岩手県立美術館	2005年1月4日－2月27日

- ・建築家との連携：

展覧会を巡回する開催各館と連携するだけではなく、実際の展示作品の設計者である青木淳、坂茂、ヨコミゾマコト、妹島和世＋西沢立衛／SANAA の4組の建築家と密接に連絡をとりあい、各館の学芸員がそれぞれ建築家と直接面会する機会を設けるよう務めた。夥しいメールのやり取りや打合せによる互いのコミュニケーションは、美術館側から美術館建築を考察するだけではなく、建築家側が美術館というものをどのように考えているのかを理解することに役立った。

- ・地域を越えた交流の意義

「美術館」というハードと、都市において「美術館」という建築物がもつ意義を考察するという問題意識を共有した開催各館の交流の結果は、各地域の事情に沿った展示プランの作成や、各館における観覧者への対応、ギャラリートークや講演会などに積極的に活かされた。このことは、展示を中心として地域の人々へ新たな視点を提供することに資しただけではない。立地を異にする複数の公立美術館が「美術館」という共通の問題を、建築家と建築というフィルターを通した新たな視点を共有したことにより、狭い意味での自館の存在する「地域」の概念を越え、より大きな「美術館という建築物を有する地域」を基礎にすえて、「美術館」と「地域」という問題を考察する場を得た。展覧会の準備段階において、各館の学芸員が互いに開催各館を訪ねあったり、ともに候補となる美術館を調査してまわったことも、一助として挙げられる。

(3) 成果物について

「日本から未来へ—Museums by Japanese Architects」展図録を制作。

形態： A4 変形、フルカラー36 ページ

内容： テキスト

「美術館のための空間を考える」 太田泰人

「1999 年以降の日本人建築家による美術館建築」 鷺田めるろ

写真・プラン・コンセプト・略歴

金沢 21 世紀美術館（妹島和世＋西沢立衛／SANAA）

新富弘美術館（ヨコミゾマコト）

青森県立美術館（青木淳）

ポンピドゥーセンター・メス（坂茂）

資料

「Museum Architectures from 1999／美術館建築・最近の動向」

(4) 参加者の反応

連携して本事業を実施した各美術館学芸員の反応と意義は上に述べたとおりである。

展覧会の観覧や各種講座などを聴講することで、本展覧会に参加した多くの人々の反応は、どの開催館においても大変良いものであった。

特に、神奈川県立近代美術館では、青木淳氏や二川幸夫氏を招いての展覧会ツアー＆レクチャーを開催し、建築家やその専門家の生の意見を聞く機会を多く設け、観覧者が美術館建築をより深く理解することにつながるようつとめた。

各館におけるアンケートの結果などを大まかにまとめれば、以下のようなになる。

- ・ 10 代から 30 代の観覧者が比較的多かった
- ・ 社会人や大学生など、建築を職としたり学んでいる人々に広く支持された

アンケートに見られた意見より

「建築の展覧会を初めて見た。大変刺激になった。」

「美術館で、美術館建築の展覧会を見たことは、非常に面白い経験であった。」

「美術館建築は地味なものであるが、展示作品はとてもよく、よく集めたと思う。」

「建築家の意図するところを具体的に表示してあり、面白かった」

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

展覧会観覧や講演会聴講を通じて参加した多くの一般市民のみならず、企画者である連携各美術館の学芸員はじめ職員が、県立・市立という立場の小さな違いはあったものの、複数の公立美術館が連携して事業にあたることで一つの問題意識を共有する、大変具体的な場を得たことは、非常に大きな意味のあることであった。

「美術館」というものをめぐって、建築のあり方・都市との共存の仕方・教育との連携のあり方・経済的効果・展覧会内容の普及、など、様々なレベルでの問題が取り上げられている現在、広域の複数の美術館が共同企画し、展覧会を巡回開催することによって、建築の現場である狭い意味での地域にとどまらずに、問題点を共有し深めることができた。更に、建築という「土地」に密着した要素を、個々の場合の細部にとらわれずに見通し、地域と美術館の関係を考える大きな視点を、地域を跨いで共有する好機となったことも、本事業実施の効果としてあげたい。

参考写真：神奈川県立近代美術館における「ギャラリーツアー&レクチャー」参加者の様子。出品作家である青木淳氏が展示作品を前に熱を込めて語った。

(2004年11月21日、神奈川県立近代美術館 葉山にて)



(6) 新聞記事等

兵庫県立美術館 読売新聞 2004年6月11日 他多数

いわき市立美術館 読売新聞 2004年9月28日、29日、30日

福島民友新聞 2004年9月22日、27日、28日、29日、30日、
10月1日、6日

読売ウィークリー(週刊誌)2004年9月12日、19日

神奈川県立近代美術館 読売新聞 2004年10月14日、25日、30日、

11月10日、11日、12日、13日

新美術新聞 2004年11月21日

建築通信新聞 2004年10月14日

信濃毎日新聞 2004年11月25日

東京新聞2004年11月30日

岩手県立美術館 読売新聞 2005年1月5日、13日、14日、15日、17日、18日、19日、
2月12日

盛岡タイムス 2005年1月9日

河北新報 2005年1月15日

朝日新聞 2005年1月11日

岩手日報 2005年2月2日、5日